令和５年度シラバス

科目名	単位数	標準単位数	対象学科・コース	対象学年・組	必修・選択	使用する教科書
製図	2	2～8	建築設備科・建築デザインコース	2年３組	必修	実教出版「建築設計製図」

特記事項	２年次に2単位、３年次に3単位、合計5単位修得予定
科目目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築分野に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。 （１）建築分野に関する製図について、日本産業規格および国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）各種設計図に関する課題を発見し、建築に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 （３）建築分野における各種図面の作成および図面から施工情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	建築分野に関する製図について、日本産業規格および国際標準化機構規格を踏まえ、図面の種類やその関連性を理解し、作図手順などの知識・技術を身につけている。	建築設計製図における基礎的な知識を活用し製図作成において思考・判断・創意工夫が的確にできる能力を身につける。	建築設計をする事に興味・関心をもち、設計製図の意義や役割を理解し諸問題の解決をめざす。主体的に取り組むとともに、建築技術者としての望ましい心構えや態度を身につけている。

年間指導計画表

月	予定時数	実施時数	指導項目	指導内容（教科書）	評価の観点			評価規準・評価方法			振り返り
					知	思	態	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	
4	6		鉄筋コンクリート構造の設計製図	鉄筋コンクリート構造の設計製図「店舗付事務所設計図」課題１　配置図	○	○	○	配置図の作図における記号・名称、線の種類について理解し表すことができる。	習得した技能を使って、各線種を表現することが出来る。また、線の種類が建築の共通言語として表現できる。	線の表現方法が建築の共通言語ということを理解し図面の示す表現に積極的に取り組む。	
5	6			課題２　「１階平面図」 「２階平面図」	○	○	○	壁芯・柱芯などの組み立て基準線を理解する。柱の配置・断面寸法・壁厚の目安を理解する。また、平面表示記号を活用し平面図を仕上げることができる。	組み立て基準線の重要性や他科目で学習したことと関連させ平面計画のへの思考・判断・表現を身につける。	基本的な建築製図の平面表示を理解し積極的に作図に取り組む姿勢がある。	
6 7	12										
9	8			課題３「立面図」　2面	○	○	○	地盤面と各階の床高、軒高、外壁芯などの組み立て基準線が引け、建築物の屋根・外壁・庇・窓・扉など外部の見えるところを全て表現することができる。	立面図の表現方法を理解し、建築物をどのように見せるのか作図においての思考・判断・表現を身につける。	建築物の形の見え方である立面図を平面図・断面図と関連付けて作図する姿勢がある。	
10	8			課題４「断面図」　2面	○	○	○	組み立て基準線をもとに、地面（GL)と建築物の床、天井、屋根との一般的な高さ寸法を理解している。壁・梁天井・開口部などの断面線、見えかがりの線の区別ができる。	建築物を立体的に捉え、視点を変えるとどのように見えるのか想像することが出来る	「立面図」「断面図」の作図手順に従って、図面を丁寧に仕上げようと努力している	
11 12	12			課題５「階段詳細図」 課題６構造図 「ラーメン配筋図」 「各伏せ図」 「配筋リスト・軸組図」	○	○	○	矩計図・詳細図の尺度が1/20，1/50で表現することを理解する。 階高を踏まえ階段の断面をけあげと踏面を段数で均等に分け作図できる。 構造図であるラーメン配筋図・各伏せ図・配筋リスト・軸組図の図	各部材の寸法や重なり方をよく観察し、図面に表現することが出来る	「断面詳細図」の作図手順に従って、図面を丁寧に仕上げようと努力している。構造図の特徴をつかみ各構造図面の重なりを理解しようと努めて作図する姿勢がある。	
12 1	12										

月	予定時数	実施時数	指導項目	指導内容（教科書）	評価の観点			評価規準・評価方法			振り返り
					知	思	態	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	
2 3	6				○	○	○	面より部材番号や部材寸法、鉄筋の種類、配筋などを読み取ることができる。			
計	70										